

# 新聞記事掲載件数にみる農村高齢化の問題とその対応

- 最近23年の朝日新聞記事を事例対象とした分析 -

On Aging Rural matters and their Countermeasures  
-Case Analysis based on the Articles from Asahi News Paper in Recent 23 years-

松尾芳雄<sup>1</sup>, 武田伊代<sup>1</sup> Matsuo Yoshio<sup>1</sup>, Takeda Iyo<sup>1</sup>

**概要** 全国紙である朝日新聞を事例として、農村の高齢化に関する取組状況を掲載記事から検討した。新聞記事データベース「聞蔵」で検索可能な最近の23年間を対象に、「農業&農村&高齢化」で該当する448件の記事を抽出した。記事に頻出するキーワードを抽出・整理し、同時掲載数により問題や対策のキーワード配置を行うとともに記事構造を4区分し、それらに基づき、主要なキーワードによる農村高齢化に対する問題と対策の連鎖構造を提示した。

## 1. 研究の背景

「地域活性化」や「耕作放棄地」という用語(キーワード:以下、KWと略記)は「農村地域の高齢化」問題を枕詞にすることが多い。「農村地域の高齢化」は農村地域管理や自然との共生や災害への対応を含め、農村地域社会に止まらず社会的な関心や問題意識の高まりとともに新聞記事での掲載も増大している。ここでは、新聞記事を対象に農村地域の高齢化問題の実態を明らかにし、問題対策の解明への接近を試みることを目的とする。本報は文献<sup>1)</sup>に基づくことを付記する。

## 2. 記事検索の方法と集計分析

**新聞記事の抽出** 朝日新聞記事データベース「聞蔵」を用い、1984年8月~2006年12月31日の記事から「農業&農村&高齢化」をKWに検索し、該当記事中、地方版重複記事、海外記事、著作権問題等で閲覧出来なかった等の記事を除く448件を対象とした。「聞蔵

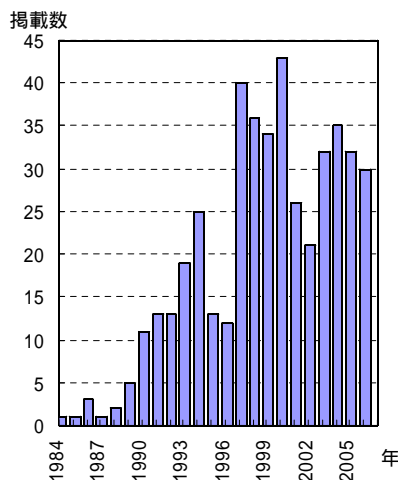


図1 記事掲載の件数推移

ビジュアル」は、朝日新聞社が著作権を有する全文検索型記事データベースをインターネットを通じて検索・閲覧できる。

### 検索結果と集計

**掲載件数の推移** 図1は経年的な掲載記事の件数推移を示す。1989年以前と1990年以降では、後者の掲載件数が大きく増加する。この背景には1990年に農家人口に対する65歳以上の割合が20%水準に達したことがある。また、農村地域の高齢化は20年先行しているといわれ、社会的関心が向けられたと考える。また、農村地域の高齢化問題は経時的に多様化し、対応としての取り組みも、法制度等の国・自治体のアプローチや市民団体等からのアプローチなどの広がりをみせつつ、開始されたことも起因する。

**同時掲載数によるKWの整理とその配置** 表1は対象記事の視点となるKW(ここでは全記事を対象として掲載頻度が高いものを拾い、複数KWの同時掲載(ここではパスと呼称)数を整理する。なお、あるKWのパス数はそのKWとそれ以外のKWとを接続するパスの総数である。表1よりパス数の多いKWほど「農村地域の高齢化」と関連が強く、また同時掲載のKWが多いため、問題対策へ接近する際の考慮すべきKWとなる。図2はパス数を考慮して「農村地域の高齢化」の実態を社会的視点から体系化したものである。なお、円圈内(記事の構造上、同種パスを持つグループ)にもパ

表1 同時掲載数(パス数)によるキーワードの整理

No	キーワード	パス	頻度	32	33	34	35	36	37	38	12
1	地域活性化	196	74	32	33	34	35	36	37	38	12
2	耕作放棄地	167	93	33	34	35	36	37	38	11	
3	集落機能低下	164	11	35	36	37	38	19			
4	グリーンツーリズム	113	45	36	37	38	15				
5	棚田	93	44	37	38	14					
6	交流	92	47	38	15						
7	集落営農	86	14	39	40	41	42	43	44	45	
8	中山間地域	84	66	40	41	42	43	44	45	9	
9	都市(住民)	83	57	41	42	43	44	45	46	12	
10	特産品	83	35	42	43	44	45	46	47	8	
11	自治体	78	16	43	44	45	46	47	48	4	
12	有機農業	77	32	44	45	46	47	48	49	8	
13	就農支援	69	38	45	46	47	48	49	50	5	
14	大規模	67	24	46	47	48	49	50	51	10	
15	農業法人	62	39	47	48	49	50	51	52	10	
16	直売所	57	20	48	49	50	51	52	53	10	
17	景観	57	21	49	50	51	52	53	54	8	
18	新規	54	22	50	51	52	53	54	55	8	
19	担い手支援	53	20	51	52	53	54	55	56	7	
20	オーナー制	53	19	52	53	54	55	56	57	4	
21	地域づくり	52	13	53	54	55	56	57	58	5	
22	ボランティア	48	20	54	55	56	57	58	59	4	
23	地域資源	48	22	55	56	57	58	59	60	3	
24	市民農園	48	17	56	57	58	59	60	61	4	
25	女性	47	11	57	58	59	60	61	62	4	
26	集積	47	10	58	59	60	61	62	63	2	
27	補助金	46	12	59	60	61	62	63		2	
28	委託	46	15	60	61	62	63			2	
29	住民取組	42	8	61	62	63				2	
30	地域文化衰退	41	11	62						3	
31	環境保全	41	26	63						2	
										3	

1 愛媛大学農学部 Fac.of Agr., Ehime Univ.

スが存在するが、表現上、頻雑となるため省略する。表1で掲載頻度の高い上位3つのKW、「耕作放棄地」、「地域活性化」、「中山間地」を「農村地域の高齢化」における社会的な位置づけが重要とみなし、パス数による配置図(図2)からその関係を明らかにする。

「耕作放棄地」: 「地域活性化」の衰えを原因に起こり「中山間地」で特に問題となる。対策として「委託」、「専業農家」、「農業法人」等のKWが指摘できる。

「地域活性化」: 「自治体」の多くで目的KWとして出現。「補助金」等を通じ「地域の活性化」を目的とした「整備」等を行う。また、この衰退により「耕作放棄地」が発生する。

「中山間地」: 「集落機能低下」の発生する場所のKWである。「直接支払制度」の対象条件で、また「耕作放棄地」の発生場所となる。

3. 記事構造による分析  
対象記事を、「農村地域の高齢化」から「問題KW」に向かう記事、「取組・対応KW」に向かう記事、「取組・対応KW」さらに「問題KW」に向かう記事、「農村地域の高齢化」から「問題KW」さらに「取組・対応KW」に向かう記事を整理し分析を行った。それぞれの記事構造の頻度、記事構造別のキーワードの頻度を集計し、「農村地域の高齢化問題」の実態、問題対策の関係解明を試みた結果、「農村地域高齢化問題」の実態として「耕作放棄地」が特に問題となる。労働力の補填として法人化や株式会社等の取組みがあり、法人化には利用集積の問題、株式会社からは農地転用危惧等の問題がある。図3に、記事構造分類での知見を総合化し、農村の高齢化の問題とその対策の関連を連鎖構造として整理した。「農村地域の高齢化」問題への対策には、取組み策定段階において、その取組みに阻害要因やその取組みから派生する問題を与件的に考慮することが重要となる。今後、問題と対策の連鎖構造について詳細なレベルでKWの検討を行う必要があるが、このためにはテキストマイニング・ツール等の効果的な援用方法を探ることが課題となる。

参考文献・資料

- 1) 武田伊代: 社会的視点による農村地域の高齢化問題の実態について 朝日新聞記事検索を用いた分析, 愛媛大学農学部地域環境工学コース卒業論文, 32P(2007.3)
- 2) 朝日新聞社「聞蔵」: <http://database.asahi.com/library2/topic/t-detail.php>

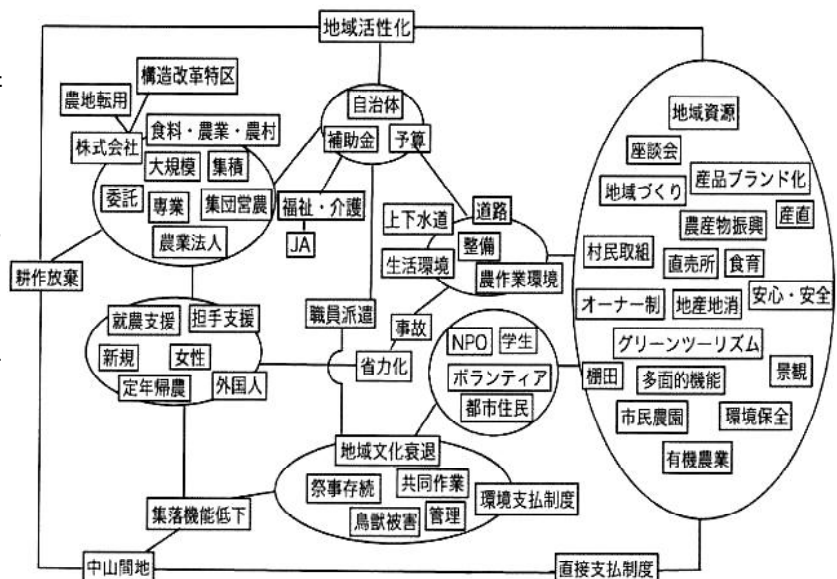


図2 キーワードの同時掲載に基づく配置(関連)

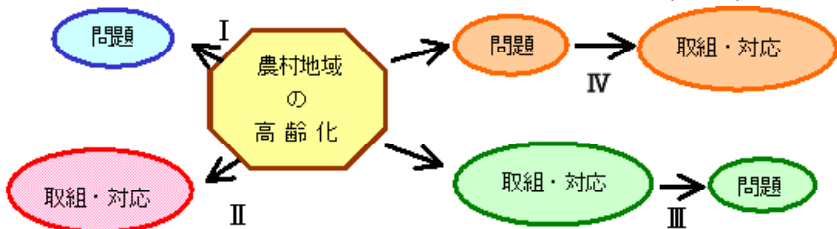


図2 記事構造の分類

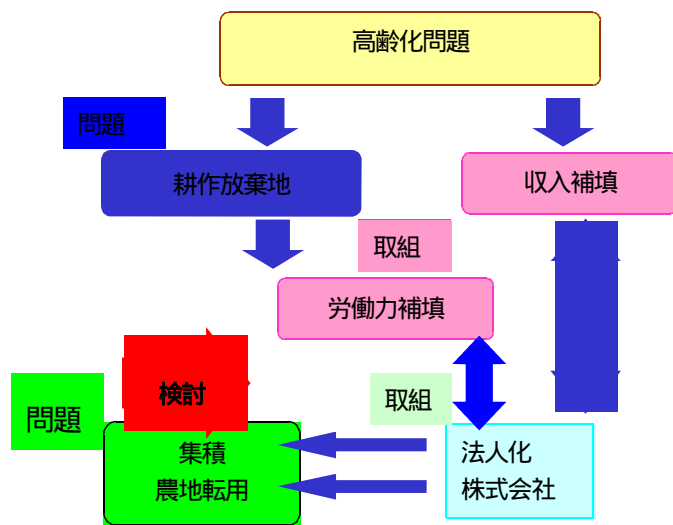


図3 記事構造による農村の高齢化の問題と対策の連鎖